

# 令和4年度 特別展「飯綱町と水の恵み」が出来るまで

富樫 均<sup>\*</sup>・小山 丈夫<sup>\*</sup>

## 要旨

令和4年秋に、いいづな歴史ふれあい館特別展「飯綱町と水の恵み」が開催された。これは、当地域の歴史的な用水に光をあてた初めての展示会であった。企画から展示開催までの舞台裏について、その概要を報告するとともに、特別展開催を通じて得られた新知見と今後の課題を考察した。

キーワード：飯綱町、特別展、企画、水の恵み、用水

### 1 はじめに

飯綱町は長野県北部にある飯縄火山の東麓に広がる人口約1万人の町である。主産業は農業で、田畑と森林が町の大半を占める。2005年には旧牟礼村と旧三水村の二村が合併し、新しく飯綱町が誕生した。2022年（令和4年）4月に策定された『いいづな歴史ふれあい館のこれから「基本構想』』では、「これからは身近な自然・歴史・文化の遺産こそが、地域の活力と発展、地域コミュニティ維持の支えになる」という認識の下、町を包括するテーマによる特別展を順次企画しながら、博物館の展示と機能のリニューアルをはかる構想が示された<sup>1)</sup>。特別展「飯綱町と水の恵み」は、その一環として企画されたものである。当地域に限ってみても、人と水との歴史的な関わりは深く

広い。このようなテーマでのまとまった展示は初めてのことであった。今回の特別展で紹介することができたのは、まだ一部の事象に過ぎないが、この町の人と水との関わりに関する理解の基本フレームを提供することはできたのではないかと思われる。

本稿では、特別展を通して得られた新たな知見とともに、展示にあたって留意した点や、工夫を施した点等について紹介し、今後の課題をとりまとめた。後日、第2弾、第3弾の水に関わる展示会が企画される時、あるいは他地域で水利用をテーマとした展示を企画される際に、参考にさせていただければと思う。

### 2 特別展「飯綱町と水の恵み」の概要

特別展の概要を表1に示す。

表1 「飯綱町と水の恵み」展の概要

会期	2022年9月23日（金）～11月27日（日）66日間（休館日を含む）
会場	いいづな歴史ふれあい館 2階企画展示室「創起庵」
主催	飯綱町教育委員会・いいづな歴史ふれあい館
関連行事	・夏休み子ども探検隊（芋川隧道トンネル） ・歴史講座（全2回開催：会場 町民会館） ・特別展記念講演会（3月に延期となり開催：会場 町民会館）
特別展図録	特別展図録 いいづな歴史ふれあい館編著 A4判全43ページ「飯綱町と水の恵み」を刊行（2022年9月）
会期中の観覧者数	521名
子ども探検隊参加者数	29名（子ども12名、大人8名、職員とサポート7名、地元講師1名、記録1名）
歴史講座参加者数	52名（第1回）＋60名（第2回）＝112名
記念講演会参加者数	74名（10月に予定したが延期となり、3月に開催）
広報手段・依頼先等	・いいづな歴史ふれあい館だより（町広報紙の記事として3月に町内全戸配布） ・案内チラシ（9月に町内全戸配布）・ポスター ・新聞取材（1紙より） ・町広報紙への掲載と防災無線放送 ・館ホームページ掲載 等

\* いいづな歴史ふれあい館 〒389-1211 長野県上水内郡飯綱町大字牟礼1188-1

### 3 企画立案と展示準備

#### 3-1 企画の趣旨と展示構想

前年（令和3年度）から構想を検討し、2022年（令和4）2月時点で以下の趣旨と展示構想を作成した。

<特別展開催趣旨>

「飯綱町にはこれまでに先人が苦勞を重ねて築き上げてきた多くの用水がある。また、町の上水道の源になっている地下水や沢水などは一体どこから来ているだろうか。私たちの暮らしと産業・歴史・文化を支える水の恵みにスポットを当て、この町の過去・現在・未来を考えたい」

<展示構想の骨子>

- ① 【自然】町の用水等の現況をまとめた水系集約図を新しく作成する
- ② 【歴史】用水の歴史的変遷を示す（三水区の三用水，牟礼地区の主な用水を対象に）
- ③ 【歴史】用水に関連する写真や古文書史料等の収集と確認，選択した一部の資料を展示
- ④ 【現況】町の上水道水源関連資料の収集と展示

#### 3-2 具体的準備

準備は以下の手順ですすめられた。

- ・用水の現状や歴史等に関する情報について，事前に町内の有識者に相談
- ・既存文献等についての情報収集と確認
- ・用水関連文書等を確認し，会期中の借用依頼等について用水の管理者や区等に相談
- ・用水や水道の現況に関し，町の建設水道課と産業観光課に情報提供を依頼
- ・主な用水については現地調査を行う
- ・展示作業について，展示ボランティアに協力を依頼

#### 3-3 展示構成と企画

当初の企画構想がそのまま実際の展示になったわけではない。準備段階で「困難を感じた点」と「工夫を行った点」があり，それらを以下に箇条書き

で示す。困難を感じた（1）～（5）はそれぞれ工夫を行った（1）～（5）に対応する。

<困難を感じた点>

- (1) 現在使われている主要な用水は，歴史的な遺産であるとともに，今日の社会基盤施設（インフラストラクチャー）でもある。その両面の意味を，バランスをもって読み解く必要がある。
- (2) 用水は長くつながって機能を発揮する巨大な施設である。そのため室内に展示することはできず，展示できる実物はごく断片的に残る関連文書類に限られる。ただし，文書の展示とパネル解説のみでは，一般の興味関心を引き出すのは難しく，展示に関心を引くための工夫が必要となる。
- (3) 「水の恵み」には，潜在的な地の利や地形や地質に起因する制約等が付帯しており，それらは水環境を規定する自然条件である。一方，人が水を使うことによって「恵み」は顕在化する。人が利用し自然を改変してきた歴史と技術が「利水」を促し，逆に「利水」によって拓かれてきた地域社会がある。そのため，「水の恵み」は自然科学と人文社会学の両面から向き合わないと，実像を捉えることが難しい。
- (4) どの用水にも水利権者が存在する。一般に自身の生活に関わりのある用水に強い関心もたれるのは当然であるが，公共の博物館展示としては，自身の生活に直接関係しない用水についても興味関心をもってもらうための配慮が必要である。そのため，個別の用水の紹介にも，一般的かつ普遍的な情報や，他の用水との関連性を意識した説明を盛り込む必要がある。
- (5) 用水にはそれぞれ固有の歴史がある。そのため，複数の用水をただ取り上げても，施設紹介の寄せ集めになってしまいかねない。そうならないためには，用水相互の類似性や違い，あるいは用水からわかる地域性にも言及し，全体を貫くストーリー性をもった展示構成が必要になる。

- (6) 用水は公的な財産であるものの、基本的に個別の水利組合や集落等の受益者団体によって管理されている場合が多い。そのため、町内に現存する数多くの用水は、行政が一元的に管理する対象とはなっておらず、それらを包括的にまとめた既存の資料はない。
- (7) 複数の幹線から支線まで、町内の用水は膨大な数となる。テーマに応じて、自然と歴史の両面から、展示対象とする用水の範囲を適切に絞りこむ必要がある。

#### <工夫した点>

- (1) 用水の管理者等を通じて歴史的資料の確認とヒアリング調査を行うとともに、企画の趣旨に沿った展示資料の選定を行った。また、できるだけ現地に足を運び、用水の現況と機能の把握に努めた。
- (2) 用水に関わる歴史的な文書や絵図の展示のほかに、用水に関連する映像コーナーの設置、用水開発や維持管理の困難に大きく影響した地質の標本資料、また用水交差部に設けられた特殊な石造構造物の石材の展示、機械化される前の土工に使用されていた道具類の展示コーナー等を加えた。
- (3) 展示会場の入り口に現在の主要河川と幹線用水の全体像をまとめた水系集約図を展示することとした。また図を個々の現況写真と説明に対応させることにより、テーマの全体像や個別の展示対象の位置関係等がわかるように工夫した。全体を4つの章立てにして「水の恵み」に関わる自然的背景と、人が自然に働きかけた歴史的な背景を整理した。
- (4)(5) 現地調査結果をもとに、町全体の水系を土地の成り立ちの観点から解説した。また歴史的な文書資料だけでなく、用水開発に関わる人物紹介、現在行われている各地の水神祭の様子、奏上される祝詞の紹介、最新の用水管理技術の紹介等の展示を盛り込み、自然の歴史から人の歴史、用水開発の歴史、水利用の現在と将来と

いった話題を、大きな時間軸の上に展開させた。

- (6) 基本図とした水系集約図では、詳細な地理院地図を背景図に、現況の水系や関連施設の位置を詳細に示した。それらに加え、主な水道水源の位置、ため池の位置、関連の深い史跡の場所や施設等の情報を加えた。それにより、現在と歴史上の様々な施設や出来事の位置関係について、同一空間内での整理・統合をはかった。
- (7) 企画の趣旨とテーマ、会場設備や展示スペース、開催スケジュールの中で準備可能な話題との兼ね合いから、展示対象の絞りこみを行った。

確定した展示構成を、【章立て】・<テーマ>・(展示場所)、ねらいの順に説明する。

#### ①【序章（プロローグ）】<宇宙・地球・北信濃> (場所：会場入り口脇)

ねらい： 特別展会場に入る前の心の準備的な位置づけで、水の存在そのものの価値や意味に気づいてもらうための小規模の展示コーナーを用意した。

「宇宙における水の存在」と、「水惑星地球の特異性」、そして「北信濃の自然水系を形づくる地形的・気候的な特性」について簡潔に紹介した。これらは46億年前の太陽系（宇宙）における水の存在から、数千万年の時間をかけた地球の陸・海分布と気候の形成、数百万から数十万年単位の北信濃の地形地質の発達史をかいつまんで紹介したものである。展示の中には、2022年5月にJAXA宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクト・JAXA宇宙科学研究所と夢を創る会・銀河連邦サガミハラ共和国（相模原市）からいづな歴史ふれあい館に提供された小惑星「りゅうぐう」の石粒標本（レプリカ）もあり、これにより地球の水の起源の問題にも関心を広げてもらうことにした（写真1）。



写真1 序章の「水の恵み3段階」の展示



写真2 会場の様子



写真3 1章、水系集約図の展示（その1）



写真4 1章の紫岩の岩石標本

②【第1章】<水の流れと自然>（場所：会場入り口から最初に目に入る壁面と展示ボード）

ねらい： 現況の町の水系（自然河川・堰や用水・ため池群・水道水源）について全体像を理解してもらうための展示とした。これにより、他の個別展示がどの場所のどういう対象かを知ってもらえるようにした。さらに、身近な河川や用水のほとんどが飯縄火山を水源とし、町の水の恵みが火山の存在に支えられていることを示した。用水等を含む町の主要な水系集約図はこれまでになかった新資料である。水系図は地理院地図を背景図とした縦120cm、横165cmの大型のパネルとし、現地調査データをもとに、GISソフトとドローソフトを用いて描いた編図である。図の中には取水施設や幹線用水の重要な分岐点、用水に関連のある史跡など注

目すべき地点の場所を示し、別途展示した写真パネルや解説と対応させた。また一部の幹線用水の開発と維持管理にとって地形・地質的な最大の障害となっていた箇所の写真パネルとともに、提供された石と新たに現地で採取した岩石標本を用意し、難所といわれる現場のイメージを伝える工夫をした（写真3、4）。

③【第2章】<水利用の歴史>（場所：会場奥ウォール（ガラス）ケースと展示ボード）

ねらい： 約400年前から記録がある水利用の歴史について、代表的な用水の「水路絵図」の展示や、歴史の裏付けとなる「検地帳」、「証書類」、「口伝・日記類」の文書を紹介した。水利用の歴史には、伝説や伝承のような事柄も少なからず含まれるが、展示資料としては町内の代表的な用水に関する史実としての歴史

を示す資料の一部を選定した(写真5)。

歴史には、用水開発(水路の開削と延伸工事)から、用水施設の維持管理に関わる聞き書き(口伝記)、用水隧道の完成や水路のコンクリート化などの近代化が進められた昭和40年代以降までの出来事を紹介した。併せて、用水開発に関わりの深い人物(歴史上の人物として清水戸右衛門、野田喜左衛門、用水の近代化に貢献した旧三水村長の馬島勝治氏の3名)について紹介した。また、過去と現在をつなぐ水への願いと感謝の継承という意味をこめ、現在も毎年続けられている各地区の水神祭の様子を紹介した(写真6)。



写真5 2章, 文書・神号・絵図の展示



写真6 2章, 各地の水神祭の紹介

④【第3章】<水環境の未来>(場所:会場中央の展示ボード)

ねらい: 現在の水の恵みを将来につないでゆけるように、水環境をめぐる今日の様々な課題に関心をもってもらうコー

ナーとした。

2050年には世界人口の40%以上の人たちが深刻な水不足に直面するというOECDの報告を紹介し、水環境をまもっていくために今何が必要かを考えていただくこととした。また、水の大切さを次の世代に伝えていくために行われているいくつかの町内の取り組みを紹介した。紹介した取り組みは、町内の小学校で用水をテーマにした体験授業が行われており、その様子をまとめた優れたレポート(新聞記事)の紹介や、2022年(令和4)に長さ1012mに及ぶ真っ暗な用水トンネルを子どもたちとともに歩いてみた「夏休み子ども探検隊」の様子等を取り上げた。また、最近一部の用水の取水口に設置されたばかりの新しい管理技術として、水門の遠隔制御監視システムの紹介も行った(写真7)。



写真7 3章, 水の体験学習の紹介



写真8 記録映像の鑑賞コーナー

以上の他に1973年(昭和48)に竣工した芋川堰隧道(トンネル)の貫通式の時の記録映像や、その約50年後に行われた既述の「夏休み子ども探検隊(2022)」の記録映像、(株)テレビ飯山が制作し飯山ケーブルテレビで放映された「飯山史跡ものがたり野田喜左衛門」の映像を50インチのモニターで観ていただく映像コーナーを設けた(写真8)。また、かつて芋川用水と斑尾川の交差点にあった「はせ工作」と呼ばれる「埋樋」に使われていた石材(2個)や、建設機械がなく人力で用水が開削された当時に使われていたと思われる道具類(おの・くわ・たこつき・じょれん)と、それら道具を使っている様子を町内の漫画家に依頼して描いていただいた想像図のパネル等を展示した(写真9)。主会場(図1)以外では、歴

史ふれあい館1階の小ホールにおいて、三水小学校から提供していただいた用水に関する体験学習の発表資料の展示を行った。



写真9 昔の工事道具の展示

主な展示資料の一覧を表2に、また展示会場のレイアウトを図1に示す。

表2 主な展示資料一覧(個別の写真パネルや解説用パネル類を除く)

区分	資料名	時代	所蔵者(敬称略)	摘要
古文書・文書関係	芋川用水図(考昔知今無二古書小出家秘蔵水路図)	江戸時代	小出和人	
	大口五郎兵衛芋川堰由緒書上	正徳5年(1715)	芋川区	
	大口五郎兵衛召抱嘆願書	享保2年(1717)	当館	馬島光枝氏寄贈
	芋川用水紫岩隧道銘板拓本	昭和10年(1935)	芋川神社	
	芋川用水「はせ工作」石樋部材(2点)	江戸時代か	芋川区	加工された石材
	おの・くわ・たこつき・じょれん	不明	当館	土工用の道具
	倉井村および枝村検地帳(写本8冊)	延宝8年(1680)	山下勲夫	
	倉井用水関係文書(28点)	江戸時代	上赤塩組	
	小玉用水御裁許証文・済口証文	延享3年(1746) 享和2年(1802)	小玉区	
	神号「清水戸工門大神」「野田喜左衛門大神」	昭和41年(1966)	倉井区	
	芋川村田方検地帳	延宝5年(1677)	芋川区	
	倉井堰用水事件古書蒐集録	大正2年(1913)	倉井区	
	倉井用水口伝記(古老からの聞き取り調査記録)	平成10年(1998)	倉井区	
	倉井用水係日記	平成9年~19年 (1997~2007)	倉井区	
七面社寄進帳	文政3年(1820)	上赤塩組		
自然・その他関係資料	飯綱町の主な水系・水源等集約図	新規作成(編図)	当館	大型パネル
	飯綱町の主な水系・水源等集約表	新規作成	当館	
	地質図・地勢図と水系関係図	新規作成(編図)	当館	
	紫岩周辺の岩石標本(5点)	(約20万年前)	近藤邦彦・当館	牟礼岩屑なだれ堆積物
	小惑星「りゅうぐう」石粒標本(レプリカ2点)	令和4年(2022)	当館	JAXA、相模原市より提供
	動画記録映像「芋川堰隧道貫通式」記録	昭和47年(1972)	(旧三水村)	
	動画記録映像「野田喜左衛門ものがたり」	令和4年(2022)	(株)テレビ飯山	特別展会期中の展示許可
	動画記録映像「夏休み子ども探検隊」記録(芋川堰隧道)	令和4年(2022)	飯綱町教育委員会	
	芋川用水・水揚げ祭祝詞(資料)	—	近藤邦彦	原文と訳文
	新聞記事「学校で子どもたちは 学習をつくる子どもたち」	平成28年(2016)	(株)週刊長野新聞社	神頭さつき氏寄稿記事
用水遠隔制御監視システム構成機器資料	—	(株)サン、パワー社	資料提供	

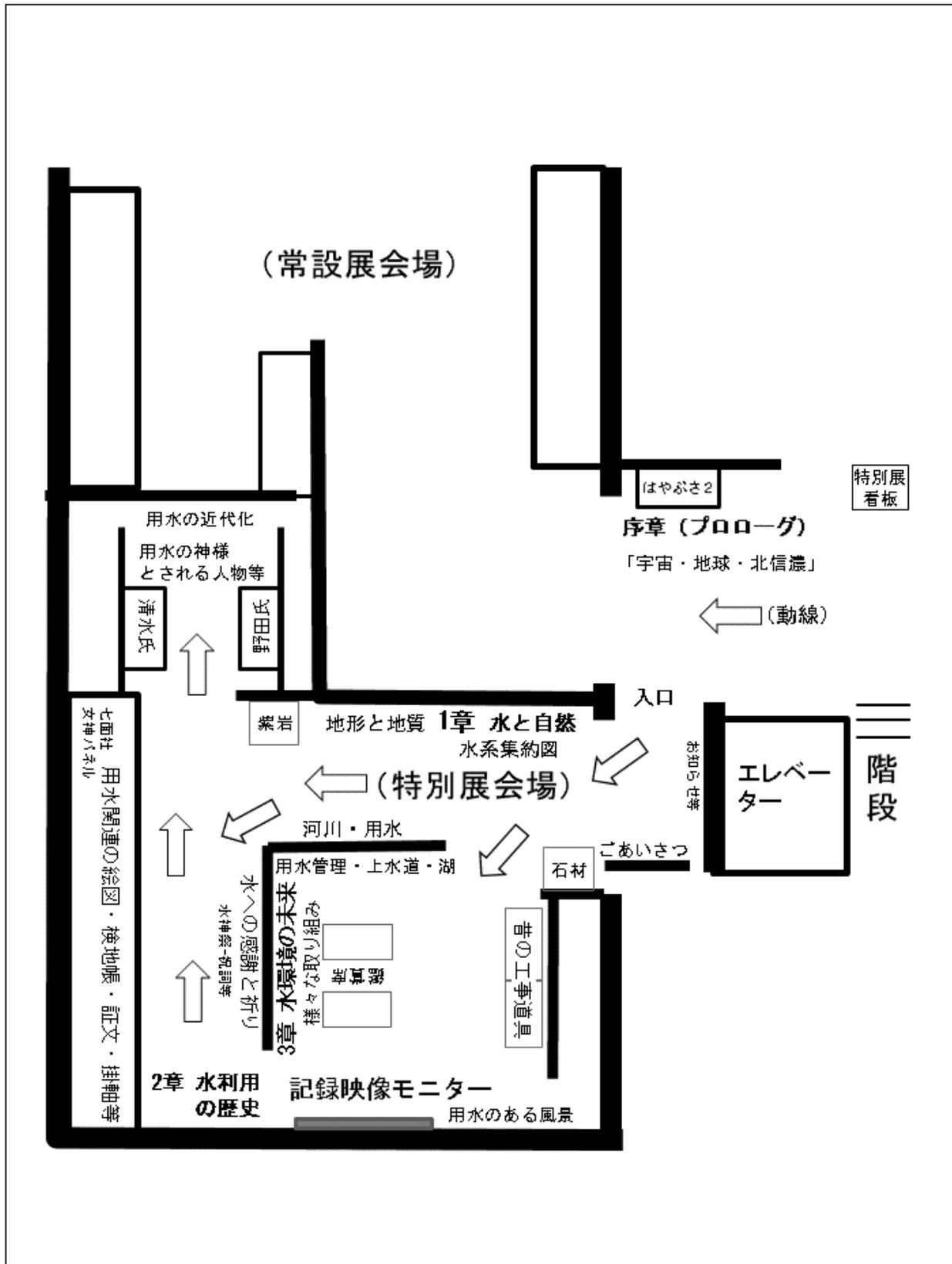


図1 展示会場のレイアウト

展示資料の中で、とくに芋川用水図はこれまで展示機会がほとんどなかった資料である。また「は

せ工作」の石樋の石材は、ごく一部の関係者のみ  
がその存在を知るだけであったものである。

### 3-4 関連行事と講演会の概要

(1) いいづな歴史ふれあい館主催「夏休み子ども探検隊」

【日時】令和4年7月31日 午前9時～12時

【場所】芋川用水取水口（信濃町戸草）～芋川用水浴い～芋川堰隧道～トンネル出口

【案内】近藤邦彦氏（用水の歴史）・富樫 均（トンネル内）

【参加者】28名（子ども12名，保護者6名，スタッフ・協力者10名）

【概要】芋川用水の一部で，鳥居川左岸の難所を避けるためにつくられた芋川堰隧道（延長1012mのトンネル，1973年（昭和48）竣工）を，子どもたちと一緒に歩いて探検した。事前に用水管理者に協力をお願いし，管理のために通水を止める予定の日に合わせて探検を行った。当日は芋川用水の取水口で用水の歴史等に関する解説をしていただき，その後トンネル内を歩いて踏破した。参加した子どもたちの感想では，最も印象に残ったのはトンネル内でのコウモリ群との遭遇であった。

(2) 講演会

「水の恵み」展に合わせて，歴史ふれあい館の主催で3回の講演会を企画した。

① 講演会 歴史講座「“水の神”清水戸右衛門と野田喜左衛門」

【日時】2022年（令和4）10月9日（日曜日）  
午後1時30分～午後3時

【場所】飯綱町民会館ホール

【講師】小山丈夫（いいづな歴史ふれあい館学芸員）

【参加者】52名

【概要】飯綱町の用水開発の功労者として語り継がれる「清水戸右衛門」・「野田喜左衛門」の二人について取り上げた。この両名は現在では神格化された存在で，芋川用水や倉井用水では春の水揚げ行事に両

名を「水の神」として崇める祭事を行っている。先人たちが感謝の念をいだきつづけてきた恩人であることは間違いないが，その人物像は虚実入り混じって語られているのが現状である。清水戸右衛門については史料上分からないことが多いとし，野田喜左衛門については近年の研究で明らかになった点を紹介した。

② 講演会 歴史講座「飯綱町の水はどこからやってくる？」

【日時】2022年（令和4）11月12日（土曜日）  
午後1時30分～午後3時

【場所】飯綱町民会館ホール

【講師】富樫 均（いいづな歴史ふれあい館館長）

【参加者】60名

【概要】飯綱町を流れる主な自然河川や用水について，それらの水系発達の背景にある自然史と水源形成の仕組み等について考察した。飯綱町には鳥居川，斑尾川，八蛇川，滝沢川の4本の一級河川が流れる。これらは自然水系であるとともに，一部は人為的な働きかけを強く受けた水系になっている。また鳥居川の源流から千曲川の合流点までの河川縦断面を見ると，短い間に緩急の明瞭な繰り返しがあることが特徴で，その特徴を生かした水利用が先人によってなされてきた。これら水系にみられる特徴をもたらした自然史と人の水利用の歴史を整理し，各水系の时空変遷を読み解いた。

③ 記念講演会 歴史講座「歴史に残された水の恵み・先人の知恵～県内各地の堰・用水の遺産巡り」

【日時】2023年（令和5）3月11日（土曜日）  
午後1時30分～午後3時

※2022年10月に開催予定であったが，事情により順延され，2023年3月に開催した。

【場所】 飯綱町民会館ホール

【講師】 山浦 直人氏（長野県立歴史館名誉学芸員）

【参加者】 74 名

【概要】 県内各地の堰や用水関連の歴史的な施設を紹介し、それらの施設の構造などからわかる先人の知恵や遺産としての価値について考察された。長野県内には佐久の五郎兵衛用水や浅間山麓の御影用水、大町市の上原温水路、上伊那の西天竜用水円筒分木工群、安曇野の拾ヶ堰など、各地に名のある特徴的な用水が数多く存在する。それらの見どころや開削当時の測量技術に関連する話題等について、スライドを用いて詳しく紹介していただいた。飯綱町の数々の用水を、より広い視野から見つめ直すきっかけを与えてくれる講演であった。

## 4 特別展の開催と見学者の反応

### 4-1 見学者の数と属性

今回の水をテーマにした企画では、目を引きやすい室内実物展示を準備しにくいという負の側面と、水は誰にとっても身近な存在で、より多くの住民が自分事として関心をもってもらえるので

はないかという正の側面の両方が想定された。また、2021年（令和3）も2022年（令和4）も新型コロナウイルス禍の影響は続いており、むしろ2022年は2021年に比較して全国的にも、県内でも、感染者数は多く、感染は高止まりしていた。一方、なるべく以前の日常生活に戻していきたいという機運は強まっている状況であった。それらのことが見学者数にどのように影響したのかは判断が難しい。結果としては、会期中の見学者数は521名で、2021年（令和3）に秋に開催された町制15周年記念特別展「飯綱町の文化財」の見学者数585名に近い程度の見学者数があった。

回収されたアンケートによる、見学者の属性を図2に示す。

町内在住者は約64%を占め、県外者が約6%程度であったことは、2021年と同様であった。また、年代別に見ると、小学生以下と60代～70代が突出して多かったことも2021年と同様であった。中学生の見学が極端に少ないことも2021年と同様であった。以上の傾向から、両年の特別展はテーマとした内容は大きく異なるものであったが、見学者数と属性比率にはあまり変化がみられなかったといえる。

なお、町内では三水地区の3用水がある芋川・倉井・普光寺の3区と牟礼地区の福井団地と牟礼

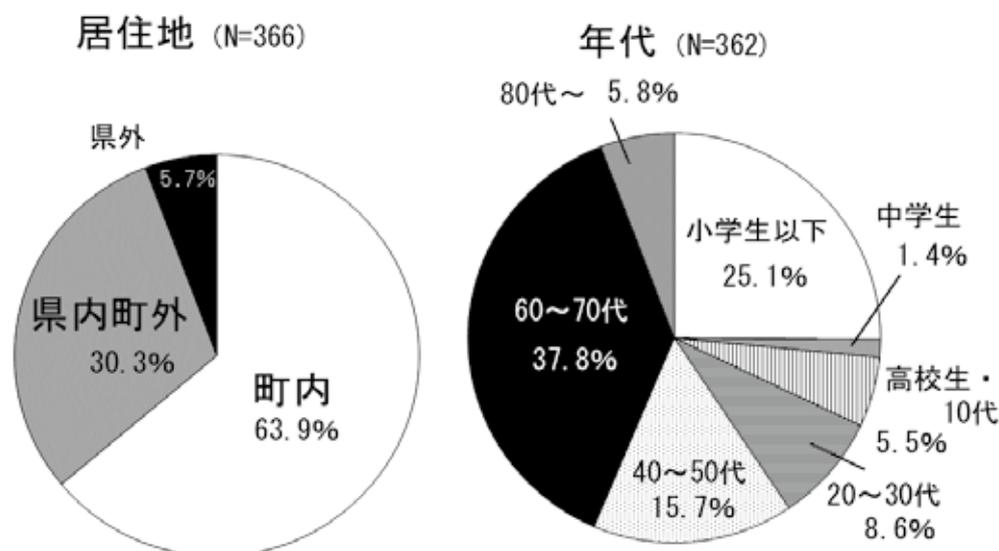


図2 見学者の属性

の2区からの見学者が多かった。それ以外の区の見学者は少なく、見学者の多い区と少ない区は明瞭に分かれた結果となった。用水への関心の強さには地区によってもかなり違いがあることがうかがわれる。

#### 4-2 見学者の感想

特別展を観た感想について、アンケートに自由に回答していただいた。以下のような感想や意見が多く寄せられた。

- ・とてもわかりやすい展示だった。
- ・知りたいと思っていたことがよくわかった。
- ・水系図により町の水系の全体像がよくわかった。
- ・水がどこからやってくるのかを初めて知った。
- ・用水に関する貴重な資料がよく残されていることがわかった。
- ・先人の努力に感謝
- ・人物や映像、昔の道具などがあって楽しかった。
- ・水の大切さがよくわかった。

というもので、好意的な感想が大部分を占めた。「前から関心があったが、今回の展示を通してよくわかった」「よい企画だった」という喜びの感想も多く頂戴し、また「水や用水への興味関心が高まった」という声も多かった。町外から訪れた人からは、「大変よかった」、「自分の市町村でもこういう展示をしてほしい」という感想があった。「思ったより展示が少なかった」、「説明文の位置が見づらい」、「記録映像の音が小さい」と展示方法の改善を求める指摘はわずかにあったが、展示そのものに関する否定的な感想や疑問の声はなかった。総じて特別展としては好評であったとみてよいと思われる。

ただし、町内の小学校や高等学校からの見学者は、授業の一環として一部のクラスが見学に来たのみであった。展示に多くの好意的な感想をいただいた一方で、1万人規模の人口を擁する町において、推定される町民の見学者数が町人口の3%程度しかなかったことは残念であった。より多くの町民の観覧と、学校からの見学者を増やすこと

は、2021年の「文化財展」においても指摘された重い課題である。

### 5 特別展を通して新たに見いだされたこと、そして今後に残る課題

自然分野、歴史分野の両面において、今回の展示を通して得られた知見は多い。それらを以下にまとめて示す。

#### 5-1 見いだされたこと

<自然環境からみえてきた知見>

- ・源流を含めた飯綱町の主要な水系が包括的にまとめられたとともに、水系図編集範囲とした約330km<sup>2</sup>の空間の中で、町の全ての水の出入りが集約されることが示された。
- ・飯綱町で使われている水の大半が、飯縄火山を水源としていることが示された。
- ・主要河川と、主な用水との位置関係や連続性が詳細な地形図上に一体的に示された。
- ・縦堰中心の牟礼地区と横堰中心の三水地区の用水の形状タイプの違い。また、主に山体の西麓を水源とする鳥居川と、山体の東麓を水源とする牟礼地区の多くの用水の水源の場の違い等が浮かび上がった。
- ・飯綱町の水系発達に多大な影響を及ぼした地殻変動と飯縄火山由来の地質との関連性

<歴史資料からみえてきた知見>

- ・堰の開削から延伸、そして用水の近代化にいたるまでの開発の歴史が、代表的な歴史史料とともに整理され、示されたこと。
- ・これまでほとんど公開される機会のなかった古い用水の絵図が、今回公開されたこと。
- ・用水開削と維持管理の苦勞が、口伝記等の資料や道具の展示等から具体的に紹介されたこと。
- ・用水開削者が、現在に至るまで神として地域住民に崇敬されていることが複数の資料と現代の地区の行事とともに紹介されたこと。

## 5-2 今後の企画に向けて

企画段階で展示候補として挙がってはいたが、関連情報が不足していたり、準備が間に合わなかったりしたために、展示できなかった事項も多い。たとえば以下のような話題がある。

- ・ 県内他地域の歴史的な用水に関する紹介
- ・ 町の用水と町外の用水，周辺地域との歴史的な関わり
- ・ 用水開発のための測量技術の歴史
- ・ 用水開発が社会や農業生産等に与えた具体的な影響について
- ・ 倉井用水の取水施設（<sup>いり</sup>坎）構造の紹介
- ・ 芋川用水と斑尾川との交差点にあった「はせ工作」の詳しい構造について
- ・ 用水に関連する野生生物（ホタル，魚，水草など）や生態系について
- ・ 里山の自然環境と水系や用水との関わり
- ・ 用水を利用した小規模発電
- ・ 用水管理の現状と課題
- ・ 支線用水にまつわる様々な話題
- ・ 水系の発達と変遷

これらは、今後第2弾，第3弾の「水」の企画展等において紹介できる可能性がある話題である。この町の人と水との関わりやその歴史については、他にも興味深い事項はたくさん残されている。さらなる調査研究と事実の発見がなされ、その成果が地域のために活かされていくことを期待したい。

## 謝辞

特別展の企画から展示に至るまで、数多くの方々にご協力をいただいた。芋川区，芋川神社，上赤塩区，北川区，倉井区，小玉区，三水小学校，三水地区用水連絡協議会，大門川水利組合からは、用水の管理者等として、文書や資料の情報提供と借用，現況の案内，関連行事の支援等の様々なご協力をいただいた。（株）週刊長野新聞社，（株）テレビ飯山，（株）サン，パワー社，白地図をぬ

ろう会には資料提供や映像展示の許可をいただいた。相澤 壽，荒井孝幸，大川明彦，大川正俊，大川礼蔵，金井元司，黒柳信幸，小出和人，神頭さつき，小林重之，小林浩道，小林善信，小柳義男，小山皆雄，近藤邦彦，渋澤憲一，長瀬 哲，松野 哲，中村信之，西村啓大，廣田裕二，馬島光枝，松木洋二，山形哲也，山下勲夫の各氏には様々な助言や資料提供等をいただいた。また，野尻湖ナウマンゾウ博物館，信濃町，長野建設事務所，飯綱町産業環境課，飯綱町建設水道課，飯綱町ビデオ編集委員会には資料や情報の提供等をいただいた。以上の方々に深く感謝を申し上げます。

## 引用文献

- 1) 飯綱町ホームページ <https://www.town.iizuna.nagano.jp/docs/4895.html> 歴史ふれあい館基本構想（2023年2月確認）
- 2) いいづな歴史ふれあい館編（2022）令和4年度特別展図録「飯綱町と水の恵み」。43 p. 飯綱町。
- 3) 富樫 均・中村芳人（2022）飯綱町の文化財の特質と課題－特別展からの逆照射－。いいづな歴史ふれあい館紀要9，1-10。